

2018 年度保健福祉センター運営委員活動報告

委員長：大見広規

委員：齋藤千秋、小野川文子、宮内俊一（奥村香澄）

センター職員：村中弘美、平野治子、宮崎八千代、大川香奈

1. 目的と任務

名寄市立大学保健福祉センター規程

第2条 センターは、名寄市立大学（以下「本学」という。）の学生及び教職員の保健管理に関する業務を行うことを目的とする。

第3条 センターは前条の目的を遂行するために、保健管理事業及び健康相談事業を行う。

第4条 保健管理事業及び健康相談事業として次の業務を行う。

(1) 保健管理業務

ア 保健管理に関する実施計画の企画・立案

イ 定期及び臨時の健康診断の実施（委託を含む）ならびにその事後措置

ウ 学内の環境衛生及び感染症の予防についての指導

エ 保健管理に関する調査研究

オ 応急処置

カ その他、健康の保持・増進に必要な専門的業務

(2) 健康相談業務

ア 健康に関する相談

イ 精神保健に関する相談

2. 活動方針（2018 年度の重点方針）

相談員不在の中で、学生支援の充実を維持するために看護師がメンタルヘルスの相談に応じ、学生支援会議の開催などで、学科や他部局・センター等との連絡調整に努めた。

3. 主な活動内容

1) メンタルヘルス（心や人間関係）の相談：のべ相談回数 555 件（全相談件数 5196 件中）

[2017 年度はメンタルヘルス 968 件／全 3637 件]

発達障害傾向があると判断される学生や、保護者との関係に問題があり不本意入学となっている学生の不適応事例などが中心であった。

2) 体に関する相談や応急処置：軽微なケガ、生理痛などへの対応

3) 学生の健康診断と事後対応

結核予防会に委託して実施している身体面での健康診断では、事後対応として尿検査や血圧の再検査、体重管理指導などを実施した。新入生に実施しているメンタルヘルスの健康診断では、うつ傾向、発達障害傾向、月経関連の困難感がある学生を呼び出し、相談対応可能であることを伝えた。

4) 健康教育：1 年生全員を対象に救急救命講座を実施、学サポだよりを 4 号まで発行した。

5) 感染症予防対策

1、3 年生を対象に、麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎・B/C 型肝炎抗体価、IGRA 検査を実施した。1 年生で抗体価が基準以下の学生には予防接種を勧奨した。また、予防接種を受けた際の補助金請求を受け付けた。

今年度は学生、教職員が実習先で結核菌排菌患者との接触があったことから、保健所と連絡

を取って接触者健診につなげた。

6) イベントなどでの救護

社会保育学科宿泊オリエンテーション、大学祭、入試、入学式、卒業式には救護班を派遣した。大きな事故はなかった。

7) 学内の安全対策、健康管理

① 学生に対し

希望学生に体重管理、料理教室を実施、新入生のガイダンスで全員を対象にアルコール対策講座とパッチテストを実施した。

② 環境衛生管理：教室の照度検査を実施した。

8) 広報活動

ホームページ上に、学サポだより、年報を掲載した。

9) 医療安全対策

保健福祉センターは医療法上の診療所であることから、医薬品の使用期限管理などの医療安全対策を実施した。

10) 学会、研究集会活動

全国大学保健管理協会の実施する北海道地方部会、全国の研究集会に参加し、演題発表と研修に努めた。

発表演題は

北海道地方部会研究集会（小樽）

- ・大見広規,村中弘美,平野治子,宮崎八千代,小古間甚一,関朋昭,荻野大助,メドウズ・マーティン.学生の成績、講義のときの座席、睡眠習慣の関係についての調査
- ・市川晶子,メドウズ・マーティン,大見広規.食品を提供する大学祭模擬店の衛生管理に関する学生の意識調査

全国研究集会（東京）

- ・大見広規,村中弘美,平野治子,宮崎八千代,松浦なつみ,荻野大助,メドウズ・マーティン.教育施設周囲の歩道上での喫煙に関する大学生の意識調査

4. 成果と課題

1) 今年度の成果

学生支援会議は、2学科4ケースについて延べ9回開催した（2月末まで）。対象学生の状況としては、心身の不調による修学困難、発達の偏りの傾向による生活・修学困難であり、その支援について検討を重ねた。学科と情報を共有し、支援の方向を模索する中でコンセンサスが図られ支援体制を整えられたケースもある一方、合理的配慮のベースが整っていない状況で現場での支援を先行して行わなければならない、学科、実習受入先との調整に難しさを感じた。

2) 次年度に向けての課題

- ① 学生の状況について、さらに学科との情報共有を図るため、規程に学生支援会議と運営委員の使命を明記したので、この活動を強化したい。
- ② 2019年度は札幌で全国大学保健管理協会研究集会が開催されるので、全国集会にはこれまで派遣できなかった看護師などの職員も参加させ、演題発表と研修に努める。